

後期の見直しに向けた論点整理

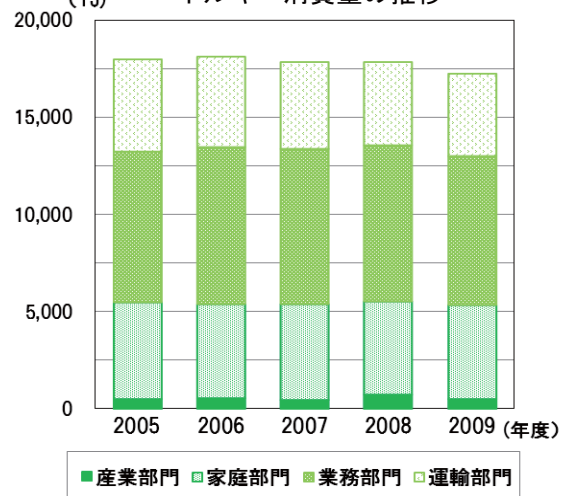
【分野1】要因分析 CO₂排出量

算定年度が異なるため単純な比較は困難だが、2009年度（平成21年度）排出量は、短期目標としている排出量（131万9千トン）を大きく超えている状況である。

CO₂の主要な排出源となる区内のエネルギー消費がここ数年微減傾向で推移しているのに対し、CO₂排出量は年により変動している。この主な原因は、「CO₂排出係数」にある。特に、電力のCO₂排出係数は毎年変動し、区のCO₂排出量はこの影響を強く受けている。また、算定に2年かかるため、直近の状況が把握できない。

CO₂排出量と排出係数の推移

エネルギー消費量の推移



【分野2】要因分析 緑のカーテン導入施設数

緑のカーテンに取り組む施設数は、4年間で5倍近く伸びている。東日本大震災発生後の平成23年度には、73の区立施設（27小学校、46施設）で緑のカーテンづくりが行われた。24年度も取り組み施設はさらに増加しており、緑がもたらす快適さを、多くの区民が実感していることがうかがえる。



<見直しに向けた論点>

- 取組の成果を把握できる指標の設定
- 計画の着実な推進に向けた具体的施策
- 多様な主体が気軽に参加できるしくみづくり

＜参考＞東日本大震災による電力不足の影響

1 平成 23 年度の夏期・冬期の節電

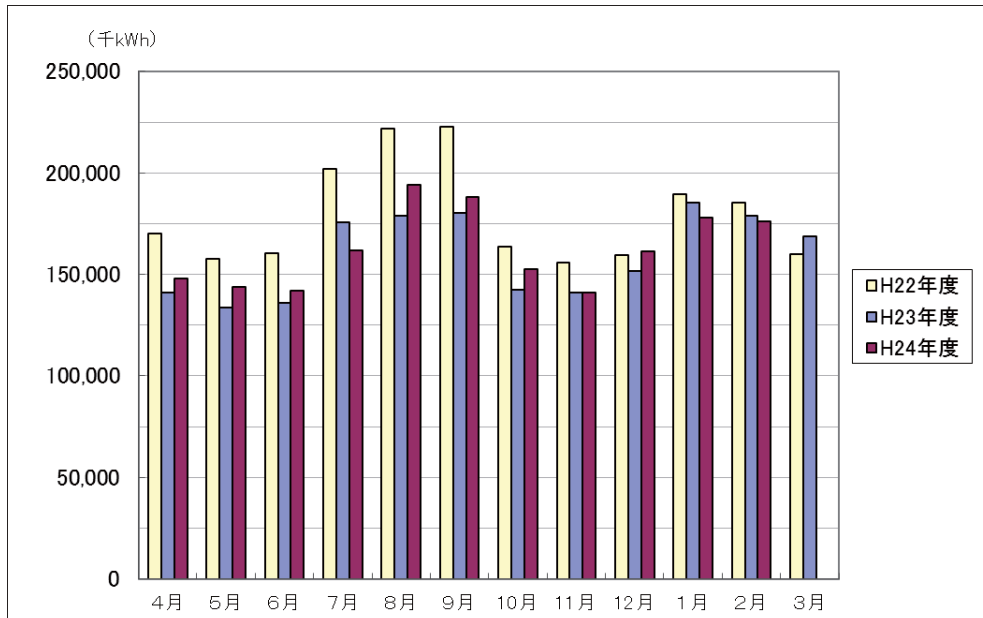
- 平成 23 年夏、国の 15%節電要請に対し、豊島区では多くの区民や事業所の取組みにより、区全体で 17.2%の削減を達成。区施設では、22.3%の削減を達成した。
- 数値目標を定めた節電要請はなかった冬期においても、区施設では、独自に節電に取り組み、13.1%の削減を達成した。

豊島区の節電目標と実施結果（平成 23 年度）

期間	東電管内の節電目標	豊島区の節電目標	実施結果
夏期(H23.7~9)	前年比▲15%	区全体 ▲15%	区全体 ▲17.2%
		区施設 ▲15.7%	区施設 ▲22.3%
冬期(H23.12~H24.3)	数値目標なし	区全体 —	区全体 —
		区施設 ▲11%	区施設 ▲13.1%

2 震災前後の電力消費量の推移

- 平成 23 年度の豊島区内の電力消費量は、震災前に比べ 10%以上減少した。
- 平成 24 年度の電力消費量も、震災前の水準までは戻っておらず、節電の意識が定着しつつあることがうかがえる。



(東京電力(株)提供：豊島区販売電力量実績(推計値)より作成)

3 区民の取組み

- 区民アンケートでは、多くが「震災後、エネルギーの使い過ぎに気をつけるようになった」と回答。また、回答者の 8 割が「今後も省エネを続ける」としている。
- 「自宅で取り組んだ節電対策」としては、エアコンの設定温度緩和や照明の消灯、待機電力のカットが多く見られた。